

“四ツ目牡丹園” について C-7

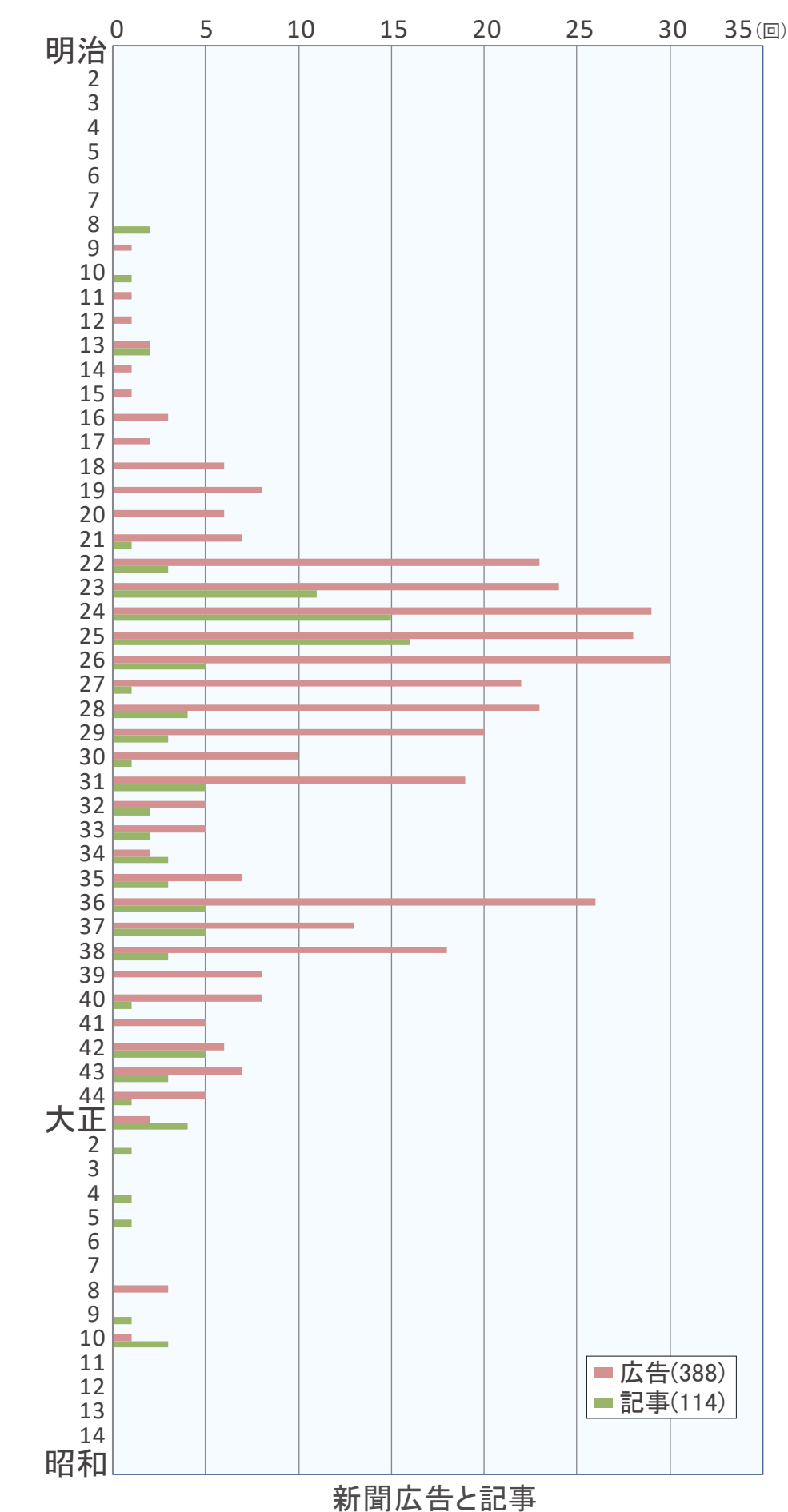
大恵朋彦、野村英史、渡邊亮、山中啓史、山本幹雄 [以上5名株式会社富士植木]

幕末の深川に創業し、明治時代には“四ツ目牡丹園”として名を馳せた植木屋の歴史

嘉永	明治	大正	昭和	平成	令和
新品種の開発 植文の芍薬、朝顔	花屋敷の経営 通称“四ツ目牡丹園”	業務範囲の拡大 宮内庁、海外、その他	造園建設業 公園、公共工事	新しい形の植木屋 指定管理業務、パルパーク	
植木の生産・販売・施工・管理					

嘉永2年(1849)斎藤幸成(月峯)『武江年表続編上』、嘉永4年(1851)成田屋留次郎、植木屋亀次郎『朝顔花合』番付表、嘉永7年(1854)成田屋留次郎『三都一朝』、安政3年(1856)耽花居士『花相花鑑』、安政4年(1857)幸良弼『都鄙秋興』、安政5年(1858)榎々園耽花『芍薬三十六花撰』、安政6年(1859)『権寺朝顔花合番付』番付表、万延元年(1860)榎々園耽花『芍薬自讃大区十四小区(沽券地図)』、1875年郵便報知新聞栗本鋤雲の書いた京繁盛植木舎番付、丹花容一覽表(引園成家文藏『梅品陳米 日本園芸会雑誌事便』、1890年菅詢社『日本紳士録』、1894年長谷川園目目牡丹園満開之詢社『日本紳士録』、俗画報第百六十五間案内』、1901年1903年内匠寮『内 CHARMING VIEWS IN THE “Land of the Rising Sun”』1906年津田利八郎『東京便覧』1906年大町桂月『東京遊記』1907年清水晴風『東京名物百人一首』1907年東京市役所市史編纂係『東京案内 上下巻』1908年交詢社『日本紳士録』1908年大町桂月『東京の近郊』1909年朝日新聞記事『名譽の牡丹(榎本子爵)』1909年交詢社『日本紳士録』1909年永井荷風『牡丹の客』1909年東陽堂『新撰東京名所図会第六十四編 深川区・深川公園之部』1909年東京市役所市史編纂係『東京遊覧案内』1910年読売新聞記事『昨日の日曜は四千人の入場者あり』1910年交詢社『日本紳士録』1911年柴田流星『藤と躑躅とたる江戸』1911年交詢社『日本紳士録』1911年若月紫蘭(保治)『東京年中行事 下の巻』一頁『東京風景』1912年東京市区調査会地籍台帳』1912年東京市区調査会地籍地図』1912年田山宗堯『東京年山宗堯』1913年永井荷風『大窪多興里』1914年実業之日本社『東京案内』年伊波泰山『東京遊覧案内』1915年竹内蒼海『花めぐり』1916年黒田久遊覧』1918年古今文学会『むさしの 第二巻第五號挿絵』1918年永井荷年中行事』1919年木下左太郎『両国』1919年半田良平『牡丹』1922年人物名鑑 牡丹園文蔵君』1922年東内』1922年大東社『遊覧東京案内』交詢社『日本紳士録』1925年交詢社交詢社『日本紳士録』1926年深川区委員名鑑復興記念坤』1927年交詢社第2附記2 藝家』1929年東京市交詢社『日本紳士録』1931年交詢社社『日本紳士録』1933年東京市役所『東京市史稿 遊園篇 3 附記 芍薬』1930年社『日本紳士録』1933年交詢社『日本紳士録』1933年東京市史稿 文芍薬』1934年交詢社『日本紳士録』1934年内山模型製図社『東京市深川区地籍台帳』1935年交詢社『日本紳士録』1935年伊藤藤『牡丹と芍薬(東京市深川区地籍台帳)』1936年高松宮家『熾仁親王日記 卷6』1937年長谷川時雨『田沢稲舟』1937年交詢社『日 岡本かの子』1940年交詢社『日 1950年合資会社富士植木に変更 1953の庭園』1957年勝見豊次『四つ目の牡丹たん(樹木の植栽と配植)』1966年株式 1968年榎田満文『明治東京歳時記』1973年前島康彦『井下清著作集 首都緑 他』1981年安住敦『四ツ目の牡丹 馬酔 中正儀ほか 2006年平野 2011年東 2012年田 2017年『パルパーク』建設 2018年江東区教育委員会『絵葉書で見る江東百景 花の名所』2018年『文献資料集 本所四ツ目の牡丹園及び植木屋文蔵』発行 2018年『文献資料概要版 時代の要望に答えて』発行

1883年鈴木松塘『絶句 看札』、1887年四ツ目牡丹園列開園広告』、1889年鮮齋第65号』、1890年森知幾復三『東京名所指南(雅俗類 1893年読売新聞記事『六千吉』東京案内 一名遊歩の 1895年汲古齋主人『風俗画報九十一号 牡丹園紹介』、1896年交詢社『日本紳士録』、1898年岡野美春『植見恋咲分』、1898年汲古齋主人『風俗画報第百五十九号』、1898年号』、1899年交詢社『日本紳士録』、1900年交詢社『日本紳士録』、1901年史伝編纂所『東大沢園編『東京便覧』1901年交詢社『日本紳士録』1901年瀨川光行『日本之名勝』1902年平出鏗二郎『東京風俗志下巻』、1903年小川一真『日本之勝観』1904年正岡子規『悟不悟の歌 左千夫に贈る』1904年小川一真『THE CHARMING VIEWS IN THE “Land of the Rising Sun”』1906年津田利八郎『東京便覧』1906年大町桂月『東京遊記』1907年清水晴風『東京名物百人一首』1907年東京市役所市史編纂係『東京案内 上下巻』1908年交詢社『日本紳士録』1908年大町桂月『東京の近郊』1909年朝日新聞記事『名譽の牡丹(榎本子爵)』1909年交詢社『日本紳士録』1909年永井荷風『牡丹の客』1909年東陽堂『新撰東京名所図会第六十四編 深川区・深川公園之部』1909年東京市役所市史編纂係『東京遊覧案内』1910年読売新聞記事『昨日の日曜は四千人の入場者あり』1910年交詢社『日本紳士録』1911年柴田流星『藤と躑躅とたる江戸』1911年交詢社『日本紳士録』1911年若月紫蘭(保治)『東京年中行事 下の巻』一頁『東京風景』1912年東京市区調査会地籍台帳』1912年東京市区調査会地籍地図』1912年田山宗堯『東京年山宗堯』1913年永井荷風『大窪多興里』1914年実業之日本社『東京案内』年伊波泰山『東京遊覧案内』1915年竹内蒼海『花めぐり』1916年黒田久遊覧』1918年古今文学会『むさしの 第二巻第五號挿絵』1918年永井荷年中行事』1919年木下左太郎『両国』1919年半田良平『牡丹』1922年人物名鑑 牡丹園文蔵君』1922年東内』1922年大東社『遊覧東京案内』交詢社『日本紳士録』1925年交詢社交詢社『日本紳士録』1926年深川区委員名鑑復興記念坤』1927年交詢社第2附記2 藝家』1929年東京市交詢社『日本紳士録』1931年交詢社社『日本紳士録』1933年東京市役所『東京市史稿 遊園篇 3 附記 芍薬』1930年社『日本紳士録』1933年交詢社『日本紳士録』1933年東京市史稿 文芍薬』1934年交詢社『日本紳士録』1934年内山模型製図社『東京市深川区地籍台帳』1935年交詢社『日本紳士録』1935年伊藤藤『牡丹と芍薬(東京市深川区地籍台帳)』1936年高松宮家『熾仁親王日記 卷6』1937年長谷川時雨『田沢稲舟』1937年交詢社『日 岡本かの子』1940年交詢社『日 1950年合資会社富士植木に変更 1953の庭園』1957年勝見豊次『四つ目の牡丹たん(樹木の植栽と配植)』1966年株式 1968年榎田満文『明治東京歳時記』1973年前島康彦『井下清著作集 首都緑 他』1981年安住敦『四ツ目の牡丹 馬酔 中正儀ほか 2006年平野 2011年東 2012年田 2017年『パルパーク』建設 2018年江東区教育委員会『絵葉書で見る江東百景 花の名所』2018年『文献資料集 本所四ツ目の牡丹園及び植木屋文蔵』発行 2018年『文献資料概要版 時代の要望に答えて』発行



株式会社富士植木は植木屋文蔵を創業者とするが、その内部に昔の資料はほとんど持っていない。ここに紹介した資料のすべては外部に保管されていたものである。内部資料は震災と戦災により失ったことが大きい。今年5月に年号が令和に移り、幕末や明治は遠退きつつある。造園の歴史は、残念ながらその研究や資料が少なく、特に近世・近代以降は少ない。また、存するものは庭園か公園に関するものが主で、それ以外の分野は更に少ない。

そこで、造園建設業を営む者として、自社の歴史を収集・整理することで、その一端に資することを期待した。もちろん、植木屋ひとつの事例から造園の歴史一般を論ずることはできないが、論じる以前に記録そのものが少なく、散逸しているのが現状であり、大変危惧されているのが実態である。そこで、**出典のしっかりした歴史資料を1つでも多く残し整理**することが、造園建設業を営む者の学会に参加するひとつの形であると理解し、ここにその一部を紹介することとした。

参考資料：『文献資料集 本所四ツ目の牡丹園及び植木屋文蔵』株式会社富士植木、2018年